

WON  
DER  
LAB

フランス  
人間  
国宝  
展

東京国立博物館 表慶館



フランス人間国宝の

技と美 —

伝統、革新、未来、

そして愛。

The  
Living  
Treasures  
of  
France

TOKYO  
NATIONAL  
MUSEUM



©NS



©Greg GONZALEZ



©GILLES TRILLARD



©Hélio'g

## 日仏両国が共同で推進する、人間国宝の技と美の結晶の展覧会

日本の通称「人間国宝」(重要無形文化財保持者)に  
ならない、1994年、フランスにおいて「メートル・ダール  
(Maître d'Art)」という称号がつくられました。本展覧会  
は、この「メートル・ダール」の認定を受けた13名の作家  
と、次期「メートル・ダール」と目され、「手の賢さに捧げ  
るリリアンヌ・ベタンクール賞」を受賞した作家2名の、  
合計15名の工芸作家の作品およそ 230件を紹介する  
ものです。フランスの伝統技術に現代の息吹を加え、  
革新的に工芸の世界を牽引するフランスの匠たちの世界  
を紹介するとともに、関連イベントも数多く開催し、国境を  
越えた手仕事の魅力と未来を、次世代の若者にも幅広く  
紹介します。

### フランス人間国宝 (メートル・ダール)とは

フランス人間国宝(メートル・ダール/Maître d'Art)は、  
フランス文化省により、伝統工芸の最高技能者に授与  
される称号です。1994年、日本の通称「人間国宝」(重要  
無形文化財保持者)にならってつくられ、ユネスコにも  
登録されています。熟練の技、ノウハウの希少性、工芸  
分野の革新への貢献を高く評価するものであり、認定  
を受けた者は自身の技術を弟子に継承する使命を帯び  
ます。2016年現在、認定者は124名です。

### WONDER LABとは？

卓越した手仕事が生み出す「美」や「驚き」を探求する  
プロジェクト。フランス工芸の海外での周知活動を使命  
とし、情熱を注ぐHEART & craftsによって企画されま  
した。伝統技術の継承と革新に努め、世界を魅了する  
工芸作家の匠の技と、彼らの人生哲学に出会う場を創造  
します。本プロジェクトは、日本で実施された後、世界各地  
での開催を計画しています。

# Maître d'Art

## フランスの工芸作家の 伝統の技と芸術性を通し 過去・現在・未来をつなぐ

卓越した技と伝統を革新し  
未来へとつなぐフランス メートル・ダールの使命と  
彼らの人生の美学を体感できる展覧会

フランスのアール・ド・ヴィーヴル(暮らしの芸術)の  
美を体感できる展覧会

フランスと日本の伝統工芸  
双方向の関係を築く、第一歩となる展覧会

美術愛好家だけでなく  
幅広い層を対象とした展覧会

### 展覧会のポイント

フランスで最も才能あふれる  
工芸作家15名による  
本展覧会のための新作を中心に  
作品約230件を展示

世界的に注目される  
建築家リナ・ゴットメによる  
来場者を別世界へと誘う空間デザイン

展覧会にあわせて  
子ども向けのイベントなど  
各種の関連イベントを開催  
(詳細は公式サイト等にて紹介します)

### 15名の作家の選出基準

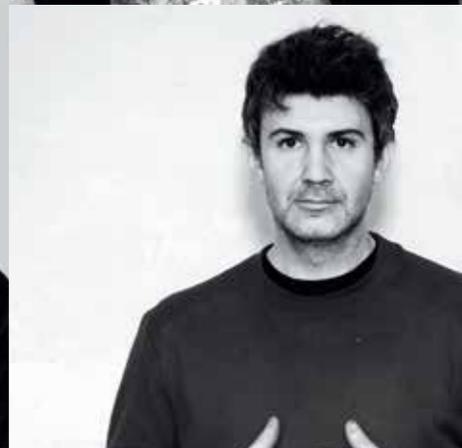
卓越した技術

技術、道具、創作プロセス等を革新する力

その分野の発展に尽力し、工芸の未来を切り開く力

15人の出展作家

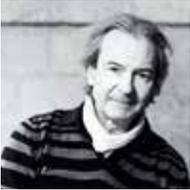
- 革細工
- ガラス
- 鼈甲細工
- 銅板彫刻
- 金銀細工
- 麦わら象嵌細工
- 紋章彫刻
- 陶器
- 傘
- 真鍮細工
- 扇
- エンボス加工(ゴフラージュ)
- 壁紙
- 羽根細工
- 折り布



## 革細工

### セルジュ・アモルソ

Serge AMORUSO



革細工作家。1959年生まれ。7年間エルメスの工房で特注品を担当。独立後はオーダーメイドの作品制作に取り組む。顧客には、ロスチャイルド家やブルネイ国王なども含まれる。モナコのホテル ポートパレスのエレベーターに施したガルーシャ(エイ革)の装飾が有名。  
2010年 メートル・ダール認定

### 素材の魅力を最大限に引き出す フランスを代表する革細工作家

15歳で革に興味を持ち、その官能性と多彩な可能性に魅了される。エルメスの工房で確かな技術を培い、その後10年間は恵まれない青少年の支援に取り組む一方で、ヒマラヤ登山をし、合気道を極めるため日本を旅した。1995年、パリにアトリエを開き、オーダーメイドの作品制作を始める。全て手縫いで仕上げられた作品は、大胆かつ独創的で温みがある。特にガルーシャなどのエキゾチックレザーの使い手として有名。展覧会では、同じ型のバッグを素材違いで9種類制作し、素材の持つ様々な側面を表現する。



## ガラス

### エマニュエル・バロワ

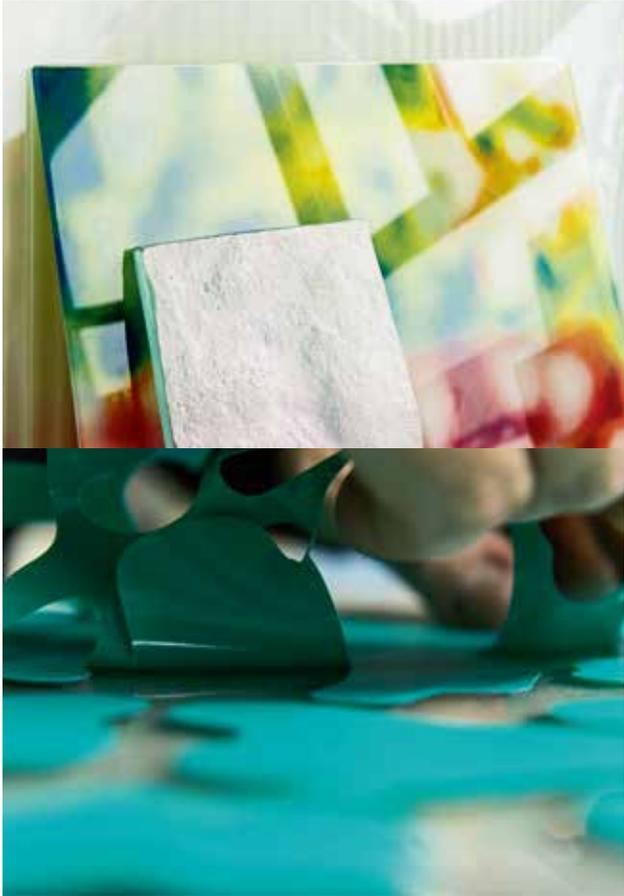
Emmanuel BARROIS



ガラス作家。1964年生まれ。教会のステンドグラス修復の第一人者であり、最近では建築家のジャン・ヌーヴェル、ポール・アンドリュウなどの世界的建築家との大型施設のガラス創作を手掛ける。日本人建築家の隈研吾氏、竹山聖氏との共同制作にも取り組んでいる。  
2010年 メートル・ダール認定

### ガラスの可能性を探求し 常に革新を追い求めるガラス作家

農学を学び、人道援助セクターに勤務した後、写真家となり多数の雑誌で活躍。遺産や芸術工芸品の撮影でガラス職人と出会い、独学でガラス細工を学び始め、教会のステンドグラスの修復に専心する。その後、工房「AEB」を立ち上げ、新たなガラス製造技術を作り上げた。革新性を重視し、伝統的な職人技術と最新の工業技術を結びつけることで、ガラスの持つ制約を乗り越え、創造的自由を見出している。今回の展覧会では、堅牢さと脆さ、光と影、不透明と透明が共存する、「揺れ動くガラス」を表現した作品を展示する。



©JYLSC



## 鼈甲細工

### クリスティアン・ボネ

Christian BONNET



鼈甲細工作家、メガネデザイナー。1949年生まれ。フランス最後の鼈甲細工作家といわれ、鼈甲製骨董品修復の第一人者でもある。顧客は、イヴ・サンローラン、アリストテレス・オナシス、ジャック・シラク、フランソワ・ミッテラン、マリア・カラス、イオ・ミン・ペイなど。  
2000年 メートル・ダール認定  
2007年 Entreprise du Patrimoine Vivant(文化遺産企業)認定  
2008年 レジオンドヌール勲章受勲

### 世界の王族に眼鏡を提供する フランス唯一の鼈甲細工作家

3世代にわたる家の伝統を受け継ぎ、眼鏡職人としての訓練を受け、鼈甲という気品ある自然素材に取り組むようになる。1970年代以降、ワシントン条約により規制された鼈甲を無駄なく利用する為、小さな欠片を圧着する独自の技術を開発。素材の持つ有機的特性を最大限に生かし、芸術的可能性を追求している。また、数年前から東京や長崎の鼈甲職人と交流し、屋久島でのウミガメの保護活動に参加・寄付している。今回の展覧会では、眼鏡やナイフを展示する他、金銀細工のロラン・ダラスブと共に花瓶を制作している。

## 銅板彫刻

### ファニー・ブーシェ

Fanny BOUCHER



銅板彫刻作家。1976年生まれ。世界に10人程しかいないエリオグラビュール作家の一人。2000年、24歳の時にアトリエHelio'gを設立。ジェラルム・カルースト、草間彌生、ウィリー・ロニ、ザオ・ウーキー、エミリア&イリヤ・カバコフ、ベルナルド・ベネなど、著名な写真家やアーティストから印刷の依頼を受ける。  
2006年 Entreprise du Patrimoine Vivant(文化遺産企業)認定  
2015年 メートル・ダール認定

### エリオグラビュールを継承する フランス唯一の作家

ユネスコに無形文化遺産として登録されているエリオグラビュールは、銅板と感光性のゼラチンを用いて画像を印刷する19世紀の技術で、大変美しい印刷技法として知られている。紋章彫刻作家のジェラルム・デカンからこの技術を習得した彼女は、銅板を単なる印刷の道具ではなくアート作品と捉え、全く新しい工芸美術を開拓。弟子と共に三次元の作品創作に挑戦している。展覧会では、強さと繊細さ、女性らしさと男性らしさ、光と影、習熟した技術と絶え間ない改革などを表現する。



©Hélio'g

## 金銀細工

### ロラン・ダラスプ

Roland DARASPE



金銀細工作家。1950年生まれ。エリゼ宮に迎えらるる国賓（イギリスのエリザベス女王など）へのギフトを10年以上担当。国立博物館の所蔵するアンティーク金銀細工の修復を数多く手掛けている。作品はルーヴル美術館やパリ、リヨン、ポルドーの装飾芸術美術館等で展示されている。

2002年 メートル・ダル認定

2006年 Entreprise du Patrimoine Vivant(文化遺産企業)認定

2006年 手の賢さに捧げるリリアヌ・ベタンクール受賞

### フランス大統領府が指名する 伝統的な金銀細工の第一人者

金銀細工の伝統技術を後世に伝える数少ない伝承者の一人。金物職人としての訓練を受け、航空機械学を学んだ後、1978年に金銀細工に専念することを決意。独学で腕を磨き、1990年代初頭にはポルドー装飾美術館で個展を開催した。新しい技法や素材の組み合わせを試し、常に革新を追い求める彼は、驚くような曲線や鮮やかな色彩効果を自在に生み出す。また、美しさと技巧を追求するだけでなく、使用法に応じてオブジェの持つ機能性や形状にも細やかに気を配り、細部まで鍛えていく。展覧会では、17件の作品を展示する。



### 麦わら象嵌細工

### リゾン・ドゥ・コーヌ

Lison DE CAUNES



麦わら象嵌細工作家。1948年生まれ。17世紀からアール・デコの時代まで装飾芸術で用いられ、その後廃れていた麦わら象嵌細工の技法を再興させた。家具や壁の装飾等を手掛け、インテリア装飾家ともコラボレーションをしている。祖父はアール・デコ様式の有名な装飾デザイナー、アンドレ・グルー（André Groult）である。

1998年 メートル・ダル認定

### 麦わら象嵌細工を再発見し 現代に蘇らせた作家

装飾デザイナーである祖父の作品や道具に囲まれて育ち、美的感覚を養う。アンティーク作品の修復を通じて麦わら象眼細工の様々な技法を習得し、廃れていたこの伝統工芸を再興させた。控えめで素朴な素材である麦わらに、忍耐と精緻さ、情熱と専門的知識、技術、才能、創造性とともに、彼女の匠の手が加わって、華やかで気品漂う、最上の工芸品へと生まれ変わる。官能的で洗練された作品は、独特のメタリックな光沢を帯びて輝き、手触りも滑らか。展覧会では、アール・デコ調の幾何学モチーフの家具を展示する。



## 紋章彫刻

### ジェラルール・デカン

G rard DESQUAND



紋章彫刻作家。1951年生まれ。フランスでも4人しかいない紋章彫刻家の一人。彫刻家の一族に生まれ、美術の名門校エコール・エスティエンヌで学び、インタリオ彫刻とエンボス加工の技術を磨く。母校で25年間教壇に立った。フランス国立工芸研究所の前所長。現在はLes Grands Ateliers de Franceの会長として、フランス芸術工芸の周知と繁栄に貢献している。

1979年 Meilleur Ouvrier de France(国家最優秀職人賞)受賞

2006年 メートル・ダル認定

### 紋章に記憶と歴史を刻み込む 紋章彫刻の第一人者

紋章の伝統と技術を受け継ぐ作家。彼は顧客との会話を通じて、家系の歴史、家族の思い出と愛の物語を、それらが時と共に忘れ去られることがないように、紋章というシンボルの中に正確さと繊細さをもって刻み込む。また、紀元前4世紀にメソポタミアで誕生した円筒印章に刺激を受け、限りなく緻密な物語体の彫刻が施された帯状オブジェを制作している。展覧会では、彼が制作した初めての円筒印章であり、自然界への敬意を表現した作品の他、初の試みとなるガラスの表面に刻印を施した作品などを展示する。

## 陶器

### ジャン・ジレル

Jean GIREL



陶芸作家。1947年生まれ。宋の時代の陶芸技術を学び、40年以上に渡り「曜変天目」の研究を続けている。世界の陶器メーカーの技術コンサルタントを多数務め、スミソニアン博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、故宫博物院(北京・台湾)など、国内外の博物館で作品が所蔵されている。

2000年 メートル・ダル認定

### 曜変天目の研究に人生を捧げ 世界的に活躍する陶芸家

14歳で陶芸に出会い、一時は画家の道に進んだが、1975年に出会った中国宋王朝時代の陶芸に魅了され、陶芸のみに専念することを決意。2008年には陶芸家である妻と共にアトリエを立ち上げた。彼は自ら道具や窯を開発し、何度も実験を繰り返し、完璧を目指して常に革新し続けることによって、西洋の技術と極東の伝統が融合した驚くべき作品を生み出す。展覧会では、窯の熱によって生み出された風景画の作品群を紹介する他、40年以上に渡る「曜変天目」の探究の集大成として、101件の茶碗を展示する。



## 傘

### ミシェル・ウルトー

Michel HEURTAULT



傘作家。1966年生まれ。18歳からコスチュームデザイナーとして活動し、衣装、コルセット、傘をジバンシーやディオールなどに提供。イヴ・サンローランから日傘を特注されたことが転機となり、傘に専念する。顧客には、エルメスやカタル王室も含まれ、映画「シンデレラ」(ケネス・ブラナー監督)などにも作品を提供している。  
2009年 Enterprise du Patrimoine Vivant(文化遺産企業)認定  
2013年 メートル・ダール認定

### 映画界や世界の王族から指名を受ける 情熱的な傘デザイナー

幼少期に傘に魅了され、傘を分解しては組み立て直すことに没頭していた。この情熱は決して失われることなく、そのまま彼の人生となりアートとなる。傘の制作に関わる技術は全て独学で学び、傘やその歴史だけでなく、ファッションや素材に関しても生き字引のような知識を持つ。情熱的な傘のコレクターでもあり、2000本以上の傘を所有している。2008年にアトリエを開き、アンティーク傘の修復と、エレガントで洗練された傘の制作を行い、映画や舞台にも多くの作品を提供している。展覧会では12件の日傘を展示する。



©Greg GONZALEZ

## 真鍮細工

### ナタナエル・ル・ベール

Nathanaël LE BERRE



真鍮細工作家。1976年生まれ。建築家の祖父の影響を受け、オリヴィエ・ド・セール国立高等工芸美術学校(ENSAAMA)でステンドグラスを学び、その後、金属細工の道に進むことを決意。作品はパリのギャラリーパトリック・フータンなどで展示されている。  
2014年 手の賢さに捧げるリリアヌ・ベタンクール賞受賞

### 真鍮細工における メートル・ダールの第一候補

平面からフォルムと空間を創り出し、自分の内なる世界を表現できることに魅力を感じ、金属細工の道に進む。彫刻家エルヴェ・ウォーレン氏のもとで真鍮の技術に磨きかけた後、様々な金属細工師の下で修業を積んだ。伝統的な技法を用いて、宇宙的かつ有機的な魅力のある複雑な形を生み出し、彫刻と装飾芸術の両方の要素をあわせ持つ作品を制作している。展覧会では、5つのオブジェと3つのテーブルを展示する。



©Nathanaël LE BERRE



©Stephen Jackson



## 扇

### シルヴァン・ル・グエン

Sylvain LE GUEN



扇作家。1977年生まれ。2011年にロンドンの扇子博物館で展覧会を開催し、2013年にアトリエを開く。顧客は、オマーン国王や世界中の美術愛好家など。映画「マリー・アントワネット」(ソフィア・ Coppola監督)、「シンデレラ」(ケネス・ブラナー監督)などにも作品を提供。  
2015年 メートル・ダール認定

### 最年少38歳で メートル・ダールの認定を受けた扇作家

8歳の頃から扇に魅了され、折り目の中に豊かな創造性を隠し持つこの小さな芸術品の制作を独学で学ぶ。18世紀にディドロらが編纂した「百科全書」を参照し、古い扇の修復を行うことで扇の技術を身に付けた。常に新しい素材を試し、伝統的なものから現代的で革新的なものまで、優雅且つ官能的で遊び心のある作品を制作している。また、日本の折り紙に着想を得て、広げると繊細な花や複雑な立体装飾が現れる、魔法のようなポップアップの扇を世界で初めて制作。高い評価を得た。展覧会では、25件の作品を展示する。

## エンボス加工(ゴフラージュ)

### ロラン・ノグ

Laurent NOGUES



エンボス加工(ゴフラージュ)作家。1968年生まれ。オリヴィエ・ド・セール国立高等工芸美術学校(ENSAAMA)を卒業した後、1994年、自身のアトリエを設立。シャネル、ディオール、イヴ・サンローラン、ジャンポール・ゴルチエ、アルマーニなど、世界の高級メゾンのカードやコフレなどを手がける。  
2008年 Entrprise du Patrimoine Vivant(文化遺産企業)認定  
2011年 メートル・ダール認定  
2015年 手の賢さに捧げるリリアヌ・ベタンクール賞受賞

### エンボス加工を芸術の域に 高めた独創的な作家

父と同じ印刷業を営む一方、エンボス加工や箔押し加工の作品制作を行い、1994年、失われつつある伝統技術の保存と再生を目指して自身のアトリエを構える。多くの高級メゾンから依頼が絶えず、顧客の期待に応え、完璧かつ独創的な作品を作るために、常に新たな手法や道具を開発し、技術・美しさの両面で探求を続けている。展覧会では、日本の特殊加工紙「パチカ」を用いた、盲目の人が触れて読むことの出来る本を展示する他、日本の製紙メーカー協力のもと、前人未到の極めて高度な技術を要する作品の制作に挑戦している。



## 壁紙

フランソワ=グザヴィエ・リシャルド

François-Xavier RICHARD



壁紙作家。1972年生まれ。画家、彫刻家、版画家でもあり、造形芸術家としての才能を活かして古い壁紙の修復やオーダーメイドの壁紙の制作を行う。19世紀の小説家ジョルジュ・サンドの家に始まり、フォンテーヌブローやシャンティイ城など、フランス・アメリカ・ベルギー・ポルトガル・イタリア・イギリスにある多数の歴史的建造物の壁紙を手掛ける。2009年 手の賢さに捧げるリリアンヌ・ベタンクール賞受賞

壁紙における

メートル・ダールの第一候補

舞台美術家としての活動した後、1997年に手刷り木版による壁紙と出会ったことで、18世紀まで遡る歴史を持ちながら20世紀半ばには完全に忘れ去られたこの芸術の道に進むことを決意。2年後、27歳で自身のアトリエを設立し、古い壁紙の修復と、オーダーメイドの壁紙制作を行っている。国内外の歴史的建造物の壁紙を数多く手掛けることで、各時代の技術を再発見し、道具や技術の再発明に努め、常に新たな可能性の探求を怠らない。2017年4月まで京都にあるヴィラ九条山に滞在。展覧会では、和紙を用いた壁紙を展示する。



羽根細工

ネリー・ソニエ

Nelly SAUNIER

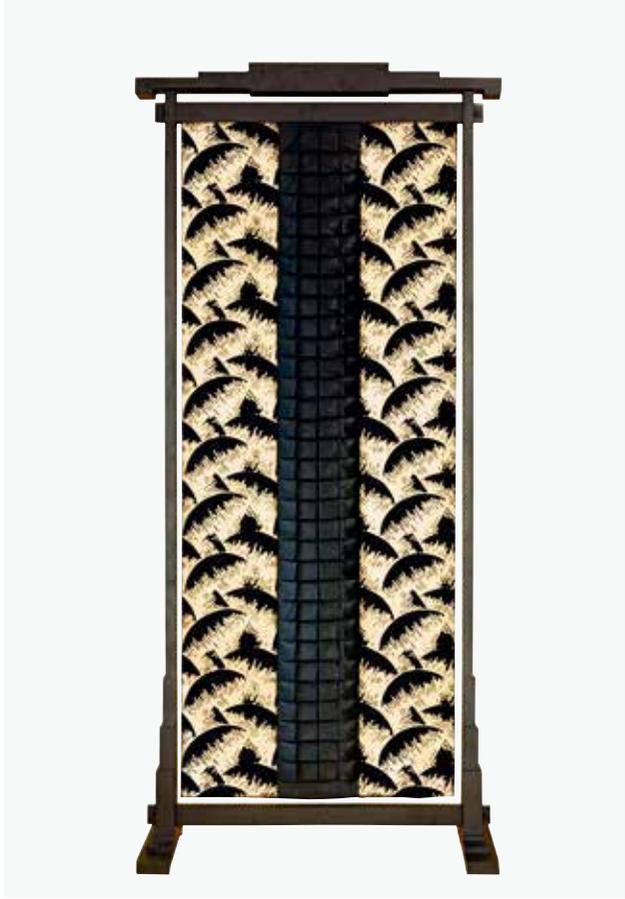


羽根細工作家。1964年生まれ。オクターヴ・ファイエの職業専門高校で羽根細工の基礎を学び、オリヴィエ・ド・セール国立高等工芸美術学校(ENSAAMA)で上級技術者免状(BTS)を取得。1996年からの10年間、フランス芸術作品革新研究所(IFROA)の繊維科で羽毛部門に携わる。顧客は、ニナ・リッチ、ジヴァンシィ、パコ・ラバヌ、ジェローム・ドレフュス、シャネル、ハリー・ウィンストン、ヴァンクリーフ&アーベル、ジャン=ポール・ゴルチエなど。2008年 メートル・ダール認定  
2008年 手の賢さに捧げるリリアンヌ・ベタンクール賞受賞  
2012年 芸術文化勲章受勲

色とりどりの羽根に

命を吹き込む

失われつつある羽根細工の技術を今日に伝える数少ない作家の一人。自然や鳥や木々に囲まれて育ち、14歳で羽根細工に出会うと、すぐにそれが自分の天職だと悟った。彼女は羽根に命を吹き込み、羽根を通して感情を表現し、見る者に物語を伝える。羽根という優美で繊細な素材を、さらびやかで気品に満ちた作品へと昇華させる彼女の才能は、ファッションやジュエリー業界から引く手あまたである。2015年には京都のヴィラ九条山に滞在し、華道家の珠寶とコラボレーションを行った。展覧会では、詩的な作品5件を展示する。



折り布

ピエトロ・セミネリ

Pietro SEMINELLI



折り布作家。1968年生まれ。オリヴィエ・ド・セール国立高等工芸美術学校(ENSAAMA)を修了。建築家やデザイナーとのコラボレーションも行っており、ピーター・マリノと共にDiorとChanelのブティックの装飾を手掛けたほか、2016年のパリ・デザインウィークではヨウジヤマモトのブティックにて作品を発表している。2006年 メートル・ダール認定  
2011年 Entreprise du Patrimoine Vivant(文化遺産企業)認定

ファッションやインテリアの世界で

注目を浴びる折り布作家

家具制作やインテリアデザインを学んだ後、プリーツの技術や自然の法則を幾何学模様で表すノウハウを学び、1996年に自身のアトリエを設立。折り紙を応用した全く新しいテキスタイルのアートを生み出し、ファッションやインテリアの世界に新しい芸術表現をもたらしている。ライブニッツやドゥルーズを愛読する彼は、緻密な計算によって生み出される複雑で詩的な作品を通して、「肌を包む」とは何か、「内側と外側」とは何か、「要素と全体」とは何かといった哲学的な問いを提示する。展覧会では、7件の作品を展示する。

※作品の写真は全てが展示されるものではありません。

※表記のない写真は全て©Philippe Chancel

ベタンクールシュエーラー財団

Fondation Bettencourt Schueller

フランスで高い社会的知名度と権威のある財団。1987年、ロレアル化粧品創立者の娘によって設立された。社会的責任の精神に則り、公益性を重視し、生命科学・芸術・社会分野を支援している。工芸分野においては、フランス工芸の卓越性を国内外に周知し、工芸の発展に貢献することを目的として、1999年に「手の賢さに捧げるリリアンヌ・ベタンクール賞」を創設し受賞者の長期支援を行っているほか、京都のヴィラ九条山の支援なども行っている。今回、HEART & craftsの推進する文化活動に賛同し、フランス工芸の周知、日仏の文化交流、両国の工芸分野が直面する共通の問題に関する対話の促進の為、本展覧会へのメセナ支援をしている。

フランス国立工芸研究所

Institut National des Métiers d'Art (INMA)

2010年にフランス経済・産業・デジタル省、文化・通信省、国民教育・高等教育・研究省の管轄団体として設立された、フランス工芸分野の中心的機関。美術工芸品の豊かさ、その教育的・文化的価値、雇用の創造や社会のエンパワーメントのための啓発活動を行い、美術工芸分野が長期的な成長を達成するための支援を行うことを使命とする。社会における工芸分野の貢献を再評価し、フランス工芸を国内外に広く周知することに尽力しており、今回の展覧会を支援している。

エレヌ・ケルマシュテール ――― キュレーター

Hélène KELMACHER



カルティエ現代美術財団学芸員、在日フランス大使館の文化担当官を経て、現在アルゼンチンのフランス大使館に在籍。フランス及び日本でも数多くのフランス文化の展覧会をキュレーション。2014年には東京ミッドタウン21\_21で、イッセイミヤケ氏とのデザイン展を手がける。今回の展覧会では、フランス伝統工芸の第一人者たちの、芸術性、精神性、革新性をどう表現するのが注目される。

リナ・ゴットメ ――― 空間デザイナー

Lina GHOTMEH



©Hannah Assouline

レバノン生まれ。現在パリを拠点に建築家として活躍。世界をリードする国際建築家として頭角を現しつつあり、DGT設計事務所の共同設立者として、エストニア国立博物館(2016年AFEXグランプリ受賞、2017年ミース・ファン・デル・ローエ賞ノミネート)を完成させたばかり。

詩情と革新性に満ちた彼女のデザインは、歴史と物質に対して深く鋭敏な建築を展開しており、彼女の手がけた建築はどれも個人の記憶と感覚を伝える精巧な媒介物となっている。また、プロジェクトの美学は自然との親密な関係に由来し、エコロジカルで持続可能な設計を目指している。

2010年、European Architects Review誌で「これからの十年間で先見性あふれる仕事をする建築家10人」に選出されるなど、世界的に注目される建築家の一人。

本展では、ヤツシャハルアーキテツツ、吉野弘建築設計事務所と共に空間デザインを手掛けている。

## 「フランス人間国宝展」

1994年、フランスで誕生した“マートル・ダール”(Maître d'Art)は、日本の重要無形文化財認定(通称“人間国宝”)にならってフランス文化省が策定した、フランス伝統工芸の最高技能者に与えられる称号です。今回マートル・ダールの称号を持つ作家を中心に、伝統を継承しつつ革新的に芸術的工芸の世界を牽引する作家15名の作品、約230件を紹介します。

会場

 **東京国立博物館 表慶館**  
(上野公園)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 <http://www.tnm.jp/>

会期

2017(平成29)年9月12日(火)～11月26日(日)

主催

東京国立博物館、NHKプロモーション、朝日新聞社、HEART & crafts

後援

フランス文化省、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

メセナ

ベタンクールシュエーラー財団

協賛

ヴァン クリーフ&アーベル、三井住友銀行

協力

フランス国立工芸研究所、  
全日本空輸、竹尾、ピエール・エルメ・パリ、J-WAVE、Redactik、Loupi

キュレーター

エレヌ・ケルマシュテール

空間デザイン

リナ・ゴットメ

ヤツシャハルアーキテツツ(テクニカルデザインサポート)

吉野弘建築設計事務所(テクニカルアドバイザー)

開館時間

午前9時30分～午後5時

※金曜、土曜、11月2日(木)は午後9時まで。  
※9月17日(日)、9月18日(月・祝)、9月24日(日)は午後6時まで。  
※9月22日(金)、9月23日(土・祝)は午後10時まで。  
※入館は開館の30分前まで。

休館日

毎週月曜日

※ただし9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)は開館、  
9月19日(火)は休館。

料金

一 般 1,400円(1,200円／1,100円)

大学生 1,000円( 800円／ 700円)

高校生 600円( 400円／ 300円)

※中学生以下無料  
※( )内は前売/20名以上の団体料金。  
※障がい者とその介護者1名は無料。  
※前売券は9月11日(月)まで発売。  
チケットは東京国立博物館正門チケット売り場  
(窓口、開館日のみ)、展覧会公式サイト、  
主要プレイガイドにて発売。

お問合わせ

ハローダイヤル03-5777-8600

報道関係

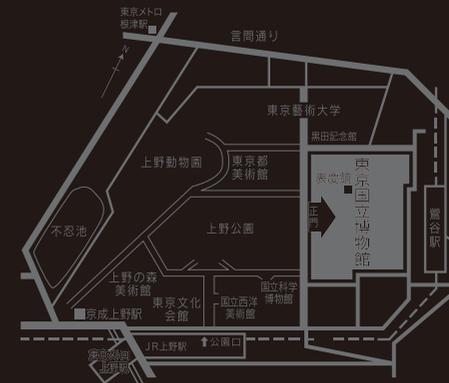
「フランス人間国宝展」広報事務局 [株式会社ヴィジョン・エイ内]

お問合せ

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-7-9-301 TEL:03-3402-5574 FAX:03-3402-5452  
E-mail:fr-treasures.jp@vision-a.com

展覧会公式サイト

<http://www.fr-treasures.jp/>





## EVENT

事前申込制。申し込みは終了しました。

### フォーラム

9月16日(土)

第1部 「日仏両国における人間国宝」  
リン・コーエン=ソラル  
(フランス国立工芸研究所会長)  
ジュラル・デカン  
(元フランス国立工芸研究所会長・紋章彫刻作家)  
室瀬和美(漆芸家)  
司会:伊藤嘉章(九州国立博物館副館長)

第2部 「建築の世界の伝統と革新」  
エマニュエル・パロワ(ガラス作家)  
伊東豊雄(建築家)  
伊東順二(東京藝術大学特任教授・美術評論家)

### ドキュメンタリー上映&トークイベント

9月17日(日) 「人生の探求」  
15:00-16:30 ジャン・ジレル(陶芸家)  
出川哲朗(大阪市立東洋陶磁美術館館長)

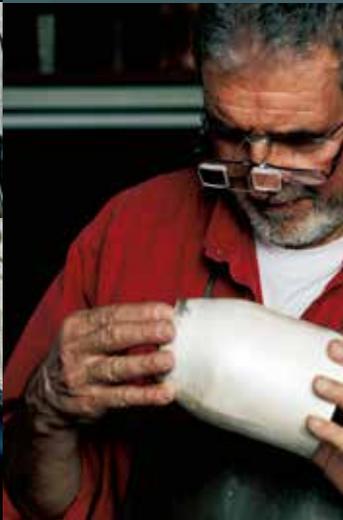
### ワークショップ こどものためのアトリエ

9月16日(土) 「ミニ傘デコレーション体験」  
10:30-12:00 講師ミシェル・ウルトー(傘作家)

9月16日(土) 「麦わら象眼細工のコースターづくり体験」  
13:00-14:30 講師リゾン・ドゥ・コーヌ(麦わら象嵌細工作家)

9月17日(日) 「羽根細工の小鳥づくり体験」  
10:30-12:00 講師ネリー・ソニエ(羽根細工作家)

9月17日(日) 「折り紙を使ったポップアップ扇子づくり体験」  
13:00-14:30 講師シルヴァン・ル・グエン(扇作家)



Serge AMORUSO ■  
Emmanuel BARROIS ■  
Christian BONNET ■  
Fanny BOUCHER ■  
Roland DARASPE ■  
Lison DE CAUNES ■  
G rard DESQUAND ■  
Jean GIREL ■  
Michel HEURTAULT ■  
Nathana l LE BERRE ■  
Sylvain LE GUEN ■  
Laurent NOGUES ■  
Fran ois-Xavier RICHARD ■  
Nelly SAUNIER ■  
Pietro SEMINELLI ■